地域と医療で咲くコミュニケーション

# あまが咲だより

2017
8月
No.39

兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

[院内専門センターのご案内]

## 遺伝診療センター
## 「ますます重要になる遺伝。遺伝カウンセリング提供体制の充実を目指しています。」

[医療チームのご紹介]

## 褥瘡対策チームのご紹介
## 「“傷と痛み・心を癒すチーム”をモットーに院内の褥瘡対策に取り組んでいます。」

●[検査部からのお知らせ] 当センターの検査部は、ISO15189の認定を取得しています。
●セミナーのご案内　●スタッフのつぶやき　●ぶらり～っと病院探訪

## 遺伝診療センター

院内専門センターのご案内

複数の診療科・部門を一つにまとめ、診療機能を統合させた当院の《センター》をご紹介します。

# ますます重要になる遺伝。遺伝カウンセリング提供体制の充実を目指しています。

### 遺伝診療センターの特徴

遺伝は、かつては遺伝病や先天疾患といった一部の限られた人々に関係するものでしたが、近年、非常に多くの病気が遺伝と関係することが明らかにされてきており、遺伝カウンセリングの重要性が急速に増しています。
現在は、小児科、産婦人科、乳腺外科にメンバーも領域も限定しておりますが、急速に広まりつつある遺伝子診断への対応など、今後はさらなる遺伝カウンセリング体制の充実を目指していきます。

### 小児科外来（担当:和田医師、池川認定遺伝カウンセラー）

ダウン症のほか、染色体異常症や遺伝性疾患についての相談、発達の相談

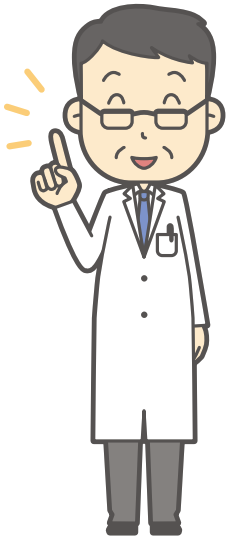
認定遺伝カウンセラー（非常勤）　池川 敦子

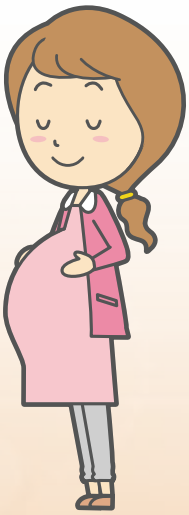
臨床遺伝専門医・指導医　和田 敬仁

●小児科非常勤医師
●京都大学大学院医学研究科医療倫理学・遺伝医療学分野准教授

## 産婦人科外来（担当：廣瀬医師、佐藤医師）

NIPT（新型出生前検査）外来、出生前診断外来、胎児診療外来、
婦人科・乳腺外科関連遺伝性腫瘍のための遺伝カウンセリング外来





臨床遺伝専門医（産婦人科医長）　佐藤　浩

臨床遺伝専門医・指導医　廣瀬 雅哉

●産婦人科部長　●輸血担当部長

### 組織構成、提供する診療体制や診療内容

遺伝診療センターでは、産婦人科の出生前診断、胎児診断、新型出生前検査（NIPT）、婦人科・乳腺外科関連遺伝性腫瘍のための遺伝カウンセリング外来、および小児科の染色体・遺伝外来の運営に関わっています。また、関係するメンバーで定期的にカンファレンスを開催しています。臨床遺伝専門医制度研修施設の認定を受け、臨床遺伝専門医資格の取得を目指す医師の支援を行っています。

### 患者さんや地域医療機関へのメッセージ

現在は、小児科、産婦人科、乳腺外科の患者さんに限定させていただいておりますが、患者さん、および地域の先生方のご要望をいただきながら診療体制の拡充を図ってまいります。

## 医療チームのご紹介

ーみんなで支えるチーム医療ー

安心・安全な医療の提供を目指し、院内で多職種協働にて活動する医療チームをご案内します。

# 褥瘡対策チームのご紹介

褥瘡対策チーム長

工藤 比等志（皮膚科部長）

## 「傷と痛み・心を癒すチーム」をモットーに院内の褥瘡対策に取り組んでいます。

高度急性期医療を担う当センターにおける褥瘡管理の目標は、的確なアセスメントを実践し、褥瘡発生のリスクが高い患者さんの褥瘡発生を予防すること、そして多職種で協働しながら多角的な視点からのアプローチを試み、褥瘡を一日でも早く治癒させることです。そこで、皮膚科および形成外科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士など多彩な職種が協力し、総合的な褥瘡対策を行っています。

後列左より：井上皮膚・排泄ケア認定看護師、笹部皮膚・排泄ケア認定看護師、湊医師、中井理学療法士
前列左より：早野秘書、谷原薬剤師、工藤医師、柳田栄養管理士、竹治医師

褥瘡対策委員会メンバーの集合写真

治　療

## 1 構成メンバー

医師２名（皮膚科医・形成外科医）、看護師２名（皮膚・排泄ケア認定看護師）、薬剤師１名、栄養管理士1名が中心メンバーとなっています。

## 2 活動内容

褥瘡は、痛みや発熱といった苦痛を伴い、重症化すると感染や栄養分の喪失などにより、原疾患の改善が遅れることもあります。褥瘡の発生予防、重症化の防止、早期治療には傷自体のケアだけでなく、栄養、感染、リハビリテーションなどの多様な対策が必要です。
そのため多職種メンバーで毎週水曜日に褥瘡回診とカンファレンスを行い、褥瘡の局所ケア、体圧分散マットレスの適切な使用状況確認、薬剤や栄養管理などを含む褥瘡ケアを実施しています。また、褥瘡対策委員会メンバーと協働して褥瘡に関する教育・啓発活動やマニュアル改訂などを行い、病院全スタッフの褥瘡に関する意識が向上することで、褥瘡発生率が減少するように取り組んでいます。

## 3 メッセージ

褥瘡の治療法を助言、相談するため、毎週チームメンバーが中等症以上の褥瘡患者さんがいる病棟を回診しています。褥瘡をはじめとするスキントラブルの発生予防、ケアを通して、患者さんたちの生活の質向上に貢献することが私たちの願いです。

# 検査部からのお知らせ

## 当センターの検査部は、ISO15189の認定を取得しています。

**検査部長 片山哲夫 ／ 検査技師長 駒井隆夫**

県立尼崎総合医療センター検査部は、平成２９年２月にISO15189の認定を取得しました。

**ISO15189とは、**臨床検査の品質と能力を保証する国際規格であり、検査精度の高い施設が認定されます。認定施設の臨床検査室は、国際的に認められた仕組みに基づき運営されており、検査結果に対する信頼性が向上します。検査部はこれからもISO15189の要求事項を遵守し、安心して良質な医療を受けて頂けるよう患者サービスの向上に努めてまいります。

後列左から：村山文書管理責任者、片山検査部長、北検体検査管理部長、藤中技術管理主体
前列左から：駒井検査技師長、入野品質管理者

免疫検査の精度管理

微生物検査

尿沈渣の検鏡

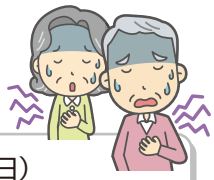
## 2つの当院企画セミナーのご案内

多くの方のご参加を！

### 第65回市民健康公開講座「市民すこやかセミナー」

テーマ **『逆流性食道炎について』**
**～胸やけ、胸痛、呑酸、咳嗽など、胸部の不快な症状ありませんか？～**

講 師：県立尼崎総合医療センター
▶消化器内科 医師 松村　毅
栄養管理部 管理栄養士 佐々木 洋太



【日　時】平成29年9月15日（金曜日）
午後2時～3時30分
【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：地域医療連携センター
☎ 06-6480-7000（代表）

### 第12回 生活習慣病セミナー

テーマ **『骨粗鬆を知って、寝たきり・骨折を予防しよう！』**

講 師：
県立尼崎総合医療センター
▶整形外科 医師 和田山 文一郎
▶栄養管理部 栄養管理士 柳田 理恵

【日　時】平成29年9月19日（火曜日）
午後2時～4時
【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：外来Bブロック（糖尿病・内分泌内科）看護師
☎ 06-6480-7000（代表）

スタッフのつぶやき

## 安全・安心な薬物療法の提供を目指して奮闘中！

**薬剤部 薬剤師　橋本貴史**

こんにちは！

入院中の患者さんに安全で安心できる薬物療法を受けていただくため、現在、当センターの薬剤師は各病棟に1名常駐し、日々、服薬指導、処方支援、医薬品管理（持参薬を含む）、医薬品情報の提供などを充実させ、薬物療法における有効性・安全性の確保に努めています。

私は、救急・集中治療部門担当薬剤師チームの一員として、患者さん一人ひとりに合った最適な薬物療法を目指して、医師や看護師、その他の職員の方々と共に日々奮闘しております！

最後に、ぜひ、お薬を正しく管理するために「お薬手帳」とお近くに「かかりつけ薬局」をお持ちください。また、お薬のことでご不明な点などありましたら、窓口や病棟でお気軽にお声かけくださいね。

## ぶらり～っと病院探訪

### ちょっと苦手な方もおられるのでは…

# 検査部 2階採血室

緊張と不安を和らげるために、明るく親切な対応を心がけています！

今回は、皆さんもよくご存知の2階採血室を訪れました。

受付スタッフが毎朝7時30分に出勤し、『採血・採尿・生理検査受付機』での受付が開始されます。8時20分の採血開始時には準備された採血管が積み上げられ、タワーのようになっていますが、最大10台ある採血ブースをフル稼働し待ち時間の短縮をはかっています。

採血ブースは、車椅子のままでも採血できるように採血台を上下に動かすことができたり、ご本人確認のための認証画面があったりと様々な工夫がされています。

そして、検査結果を正確かつ迅速に出すことができるように採血室のすぐ裏側には多くの臨床検査技師が働く巨大工場のような検査室が隣接していました。

また、採血室には身長・体重の測定機も設置されていて「IDを入力すると身長・体重の測定結果をカルテに反映させることができますので、ぜひスタッフにお声をかけてくださいね」とのことでした。

多くの患者さんが苦手にされる採血ですが、採血室の受付スタッフや看護師・臨床検査技師が少しでも皆さんの緊張と不安を和らげるように明るく親切な対応を心がけておられるそうです。

採血室

検査室

採血管準備機

## 編集後記

あまが咲だより39号では、遺伝診療センター・褥瘡対策チーム・ISO 15189と見慣れない難しい漢字や記号の取り組み紹介が中心ですので、どうすればわかりやすいのか試行錯誤の連続でした。これからも地域の皆さまに尼崎総合医療センターの様々な取り組みを上手に伝えられるよう頑張っていきたいと思います。<(_ _)>　（A.O.）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社